PL. 13　生物相調査　無脊椎動物（昆虫類）

オオコツノアリ（アリ科）
2000年に富士北麓で筆者が採集記録.既知の記録は青森、秋田.撮影：萩原

アカヤマアリ（アリ科）
火山砂礫地などに代表的な種.本州の分布南限.撮影：萩原

クロキクシケアリ（アリ科）
富士山の標高2,000m以上の高山帯を代表するアリ.撮影：萩原

シワクシケアリ（アリ科）
標高2,000m以下の林において最も普通にみられる.撮影：萩原

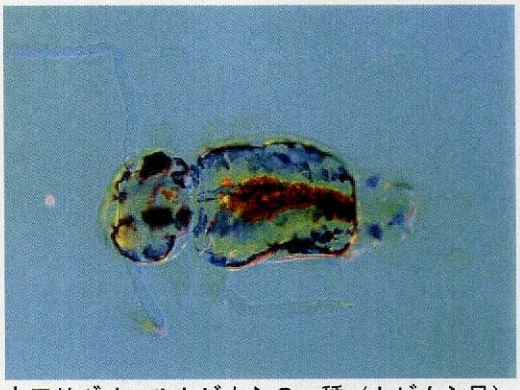
主な甲虫類
左からツメボソクビナガムシ(クビナガムシ科)・オカモトツヤアナハネムシ(アリモドキ科)・ウエノモリヒラタゴミムシ(オサムシ科).撮影：篠田

主な甲虫類
左からクロマルクビゴミムシ(オサムシ科)・ルリクワガタ(クワガタムシ科)・エゾベニヒラタムシ(ヒラタムシ科).撮影：篠田

その他の主な昆虫類
左からヒメカマキリモドキ(アミメカゲロウ目)・ラクダムシ(アミメカゲロウ目)・ガロアムシ属の一種(ガロアムシ目).撮影：篠田

その他の主な昆虫類（鳥獣の外部寄生虫）
左上：ミナミノミ(寄主アカネズミ)・左下：ニホンヒミズモグラノミ(寄主ヒミズ,1996年)・右：クモバエ科の一種(寄主モモジロコウモリ).撮影：篠田

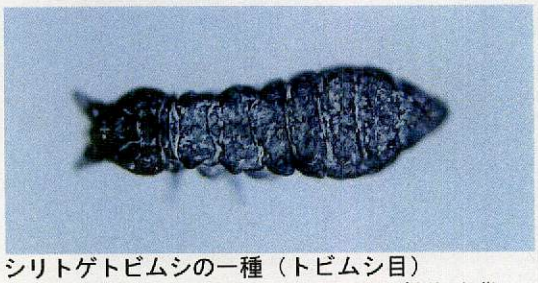
PL. 14　生物相調査　無脊椎動物（土壌動物）



カワリヅメマルトビムシの一種（トビムシ目）
ロシアなど旧北区で知られていた. 日本初記録. 撮影：伊藤

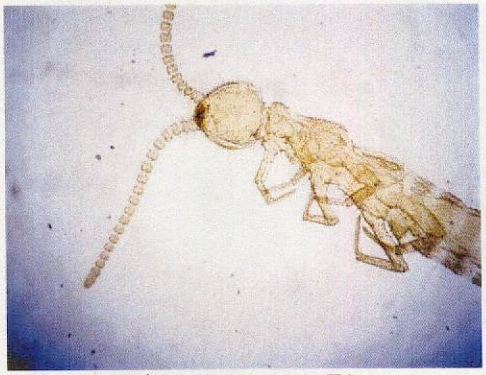
ヤマトフトゲマルトビムシ（トビムシ目）
1994 年に筆者が富士北麓から新種記載した種. 撮影：伊藤

ウエノコンボウマルトビムシ（トビムシ目）
既知産地は長野県と山梨県（富士北麓）のみ. 撮影：伊藤



シリトゲトビムシの一種（トビムシ目）
脛付節の形状が日本産既知種（同属）とは異なる. 撮影：伊藤

カマアシムシ（カマアシムシ目）
代表的なカマアシムシ類. 富士北麓地域では低山域で確認. 撮影：中村

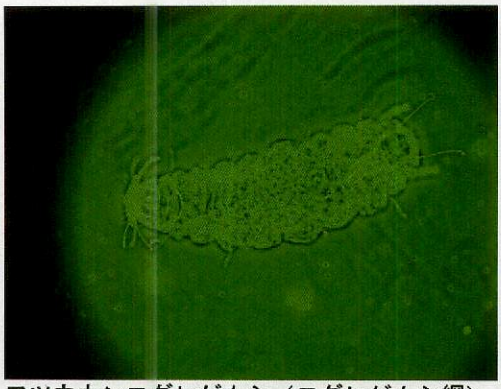


マツムラナガコムシ（コムシ目）
草原（St. 7）を除く全地点で確認された. 撮影：中村

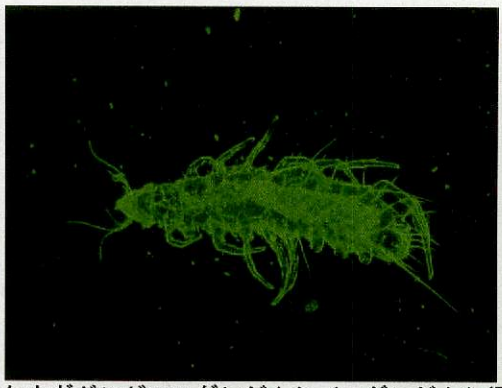
アカヒラタヤスデ（ヤスデ綱）
富士山に広く分布し、美しいヤスデの一つ. キノコを食べる. 撮影：石井

キヨスミベニジムカデ（ムカデ綱）
富士山を代表するベニジムカデ. 撮影：石井

PL. 15　生物相調査　無脊椎動物（土壌動物）

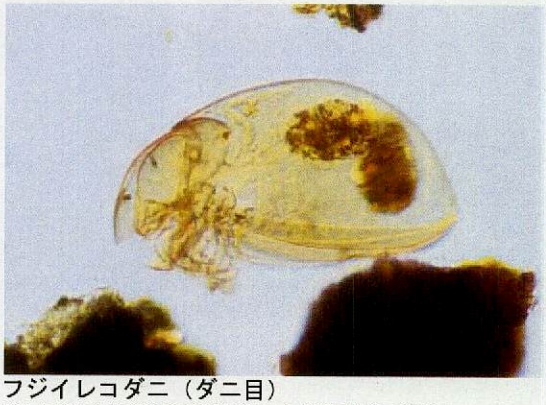


フツウホンエダヒゲムシ（エダヒゲムシ綱）
日本では最も広く分布する普通種の一つ. 撮影：萩野



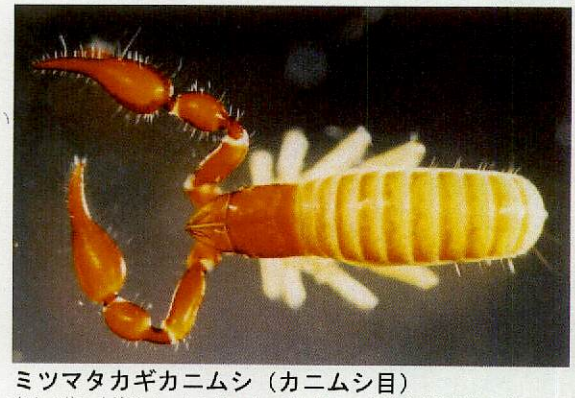
ケナガドンゼロエダヒゲムシ（エダヒゲムシ綱）
体長 1.2-1.6mm の大型のエダヒゲムシ類. 撮影：萩野

エゾマルサラグモ（クモ目）
亜高山帯で確認された. 撮影：菅波



フジイレコダニ（ダニ目）
富士北麓の洞穴付近を基準産地とする種. 撮影：芋根

ミヤマツチカニムシ（カニムシ目）
茨城県、栃木県の山地など生息地が限られた種. 撮影：坂寄



ミツマタカギカニムシ（カニムシ目）
富士山麓の土壌性カニムシ類の中では大型で、山中湖が基準産地. 撮影：坂寄

チビコケカニムシ（カニムシ目）
伐採がくり返されてきた森林など、不安定な環境に生息する. 撮影：坂寄

ツチカニムシ科の一種（カニムシ目）
眼が退化したり、付属肢が長いなど洞穴性の特徴をもつ. 撮影：坂寄